タイトル：「世界にオープンな日本を目指して」

先日、六本木で開催された『ハラルと日本』のシンポジウム。そこで意見発表をされた「マレーシア・ハラル・コーポレーション」代表取締役のアクマルさんに、後日改めてお時間をいただき、ハラルという概念に対して、日本が成すべきことをじっくりと伺いました。

音：なぜ今、日本はハラルを意識しなければいけないのですか？

アクマルさん：日本の人口は、現在の 1 億 2000 万人から 2050 年には 9500 万人になると言われています。少子化が進み国内マーケットが先細りしていく日本ですので、国内需要だけでは景気回復はおろか現状維持さえも危ういと考えます。世界に通用する強力なブランドである“Made in Japan”にハラルの要素が加われば、17 億人を占める巨大なイスラム市場へ参入することが可能になります。ハラルに対応することで、日本の産業・経済の発展が見込めるでしょう。

音：日本は、イスラム世界の方から見ると遠い国なんですね。

アクマルさん：世論調査をすると、マレーシアやインドネシアでは 70%の人が、日本が好きだと答えます。しかし日本へ旅行には行きたいけれど、ハラル環境がないから面倒、といって来日しない現状があるのです。そのあたりにもっと配慮があれば、マレーシア、インドネシア、中東などの裕福な観光客を呼び込むことができると思います。

音：具体的にどのようなハラル環境を整えればいいのでしょう？

アクマルさん：ハラル環境とはイスラム教徒が食事のできる店があることや、お祈りをする場所が整っているかどうかです。日本は日本のやり方、ローカルハラルでいいと考えます。厳密にやろうとすると、レストランにアルコールもおけなくなりますから。

音：日本にもアラブ系のレストランやマレーシア料理店にハラルレストランがありますよね？

アクマルさん：食は文化だと思います。せっかく日本に来たのだから、日本の食文化を体験して欲しい。目にも美しい五味五色の日本料理や、おいしい焼肉、しゃぶしゃぶなどを味わってもらいたいと思います。また食は社交の場であるとも考えます。イスラム教の人イとイスラム教以外の人が一緒にテーブルを囲めるレストランが必用だと考えます。また、留学生の金銭的なことを考えると、ハラルメニューのあるファミリーレストランがあれば、最高です。

音：日本で初めてハラル化した宮崎ハーブ国産牛を販売しているアクマルさん。このお肉は渋谷の焼肉店「牛門」にて、日本式の炭火焼肉として食べられるんですよね。この料理を提供しているのは、日本に旅行に来たイスラム教徒の方のためだったんですね！マレーシアにはハラルの和食店があるので、そこのシェフを講師として招いて、レシピや作り方を教えてもらうといいかもしれませんね。

アクマルさん：先ほどお祈りの場所と言いましたが、お祈りに必要なスペースは、人が座って地面に頭をつけられる広さですので、だいたい一人用で 1x1 メートルです。観光地に 1 ヶ所ずつあればいいと思います。また、雪を見に行きたいという人のためにスキー場や北海道、子供から大人に人気のあるディズニーランドにもあると喜ばれると思います。

音：ディズニーランド！なるほど。

アクマルさん：もう 1 点はビザです。外務省は、2010 年 7 月から行ってきた 1 年間の施行期間の運用情況を踏まえ、2011 年 9 月 1 日に「中国人個人観光ビザ」について、さらなる緩和を実施しました。マレーシアや他のイスラム諸国にも観光ビザの緩和を適用してもらえると、イスラムの富裕層を取り込めると考えます。

音：日本でも、昔に比べるとハラルに対する意識が高くなってきていますか？

アクマルさん：「味の素」が紆余曲折の末インドネシアで調味料の販売にこぎつけたこと、キューピーがハラル認証獲得に向けてマレーシアのマラッカに工場を設立したことなどから、ハラルに対する日本企業の意識が高まっていることは確かです。それは、先に私が述べたように、日本のマーケットの縮小を危惧した先に見えたものが、巨大なイスラム市場だということではないでしょうか。また、イスラム教徒の留学生のために東京大学、京都大学などは、学食にハラルのメニューを加えています。留学生にとっては、ありがたいことでしょう。私にはこのことから、つまり留学生の数からもイスラムマーケットの巨大性が見えるのです。

音：アクマルさんのスローガンは、「ハラル・フォー・オール」（すべての人にハラルを！）ですよね。

アクマルさん：ハラルであるということは、全イスラム教徒にとっての必須事項ですが、イスラム教徒だけのものではないと考えます。厳しい安全基準をクリアーした肉・料理という認識で、多くの人にハラルを楽しんでもらいたいと思います。また、最高品質の和牛

を自国で食べたいと願っている海外のイスラム教徒の方々へ向けて、輸出も進めています。
マレーシアからの国費留学生として来日してから早２０年、私のルーツであるイスラムと、
私を成長させてくれた日本の架け橋になるよう、今後一層まい進していく所存です。

音：アクマルさん、応援しています！